

「第2次長門市観光基本計画（案）」に対する意見及びこれに対する市の考え方

- 意見募集期間 平成29年1月4日（水）～平成29年1月31日（火）
- 意見の件数 2名 6件
- 意見の概要と市の考え方

No	ページ	箇所	意見の概要	市の考え方
1	21	(図14) 訪問者アンケート 本市観光への満足度	訪問者アンケートについて、大変満足にあたる13.7%はリピーターとなりえる方々だと判断出来るが、それ以外の86.3%の人は、余程のことが無い限り再訪が見込めないと思われる。ただ単に満足度を調査するだけでなく、長門市を訪問して何が不満だったのか？何で普通だったのか？という意見を入手・検証する必要がある。	アンケート調査結果における不満足の原因については、資料編5アンケート調査結果（86ページ中段）に記載しているとおり、景観や街並み、情報提供・発信などが挙げられています。これらの意見については今後の取組の参考となる貴重な意見ですので、現状・課題を十分に検討し、各施策の中に反映することとしています。
2	25	数値指標「ながと”やさしさ”指数	「ながと”やさしさ”指数」について、平成33年の目標値50.0%をさらに上げるべきである。他の観光地との差別化を図るためには、観光客の満足につながるおもてなし力を上げることが必須であり、高い目標値を設定すべきである。	目標値を見直し、50.0%から60.0%としました。本計画中の戦略2において「市民協働による『おもてなし力』の強化」を推進していくこととしており、その成果指標としてより高い目標値を掲げて取り組むこととします。
3	26	行動計画3「観光」を切り口としたビジネスの展開	「観光」を切り口とした新しいビジネスの展開について、現在の長門市の観光地は無料で見られる所が多く、それが「市に金が落ちていない」という市民感情につながっている。市民みんなが「観光で飯を食う」という意識改革が必要である。 まちが変わらない状態で民間や地域に事業進出を促されても、どこも経営状態がいいわけではなく、なかなか積極的に打って出られない。まずは、行政の大きな力でまちを整備してもらい、観光客の目線を惹きつけたうえで民間の出番を作してほしい。	意識改革の必要性は、十分認識しているところですが、元乃隅稲成神社のように行政の力によらなくても一躍観光地となるという例もあることから、市民、事業者、行政、関係機関各主体が担う役割の中で、それぞれが知恵を出し取り組むことが必要と考えています。行政が行うべき整備については、戦略7に記載のとおり、計画的に実施していくこととしており、観光によるまちづくりの推進には、市民が積極的に参加できる観光振興をめざし、全体の意識向上を図ることこそが大切と考えています。
4	27	行動計画1長門のおもてなし力の構築	観光コンシェルジュ制度について、観光客と接する職種だけでなく、市民みんながコンシェルジュになる意識と仕組みも必要。	まずは宿泊施設や観光案内所において観光コンシェルジュを設置することとしています。最終的には市民にも対象を広げ、市全体で観光客を受け入れる意識と体制を整えていきたいと考えています。
5	31及び39	数値指標（市民アンケート）	市民アンケートによる数値指標①「自然、農業などの体験型観光の推進に関する満足度」、②「イベント、祭りなどの反復型観光の推進に関する満足度」、③「温泉など滞在型観光の推進に関する満足度」について、観光客数や外国人宿泊者数などの目標数値に対して、市民満足度の目標数値が低いのではないかと。	目標値を見直し、①20.0%から50.0% ②30.0%から50.0% ③30.0%から50.0%としました。本計画の基本方針として「市民が経済効果を実感できる観光振興」を掲げており、観光客のみならず、市民の満足度も高めることも目標とします。
6	31	数値指標「イベント、祭りなどの反復型観光の推進に関する満足度」	「イベント、祭りなどの反復型観光の推進に関する満足度」の向上について、長門市は祭りやイベントが多いが、市民が20%程度しか満足していない原因に、イベント日が重なっている点がある。他の地域のイベントに行きたくても行きにくい現状がある。市民も他地域の行事に参加できるようにすることが大切である。	イベントの日程については、他のスポーツ行事等との調整を行っているところですが、行事の数も多く実態は難しい状況です。日程調整については、今後の課題として認識し、さらなる調整に努めます。また、イベントや祭りに関する満足度向上のため、戦略6行動計画2において「既存素材やイベントのブラッシュアップ」を掲げており、観光客の満足度向上につながるイベントを目指していきたいと考えています。